

「あすなろ」便り

NO65

2009. 12. 2
発行 あすなろ
電話 046- 254- 2005



麦の芽が元気です

元気になってよかったね

あすなろの家の畑の小麦の芽が寒い中元気に育っているように、君は、元気に育っていますね。あすなろの家を巣立ってから8ヶ月が過ぎましたが、元気に通学していること、スタッフ皆で喜んでいました。そんな時、お母さんからの思いを伺いました。

息子は、今年の4月、「りっぱな高校生」になりました。

息子が、突然の不登校になったのは、今から8年前でした。その頃「北地区文化センター」で「不登校を語る会」が、すでに発足されていて、子ども達の居場所作りが提言されていました。翌年、サニープレイスを拠点とし、2年目にはある方のご厚意により、四ッ谷に1軒の広い家を提供していただき、現在の「あすなろの家」ができたのでした。

専業主婦の私にとって、一日中親子二人で家の中で過ごすことは大変な事でした。その頃は、息子の気持ちもわからず、私の気持ちばかりを優先していたように思います。そして、親子で閉ざされてしまいがちになった心を開いていただいたのが「あすなろ」のボランティアの方々でした。

幸いに、外に出るのが好きな息子でしたので、親子で家以外に外出できる場所が出来たのは本当にありがたい事でした。何年かたつうちに、息子は一人で自転車に乗って「あすなろ」へ行くようになり「相武台コミュニティセンター」で学習もさせていただきました。学校の先生方が驚くほどほとんど休まずに出席していました。そして、息子が外出している時間は、母親の私にとって息子との距離をとれる大切な時間となりました。

学校に行けなくなり、他人とのかかわりが薄くなりますが、息子は「あすなろ」のボランティアの方々から誉められたり叱られたりもし、親とは違うかかわりを持つことで、社会性が身につけてきました。

高校の入学では苦労しましたが、「あすなろ」の一員であったことは高く評価されました。息子は時々「俺はあすなろの子」といって言います。

先日、息子は高校の授業が早く終わった日、何を思ったのか、座間の駅から革靴を走らせながら「あすなろの家」へむかっていたのです。帰ってきて息子は一言「かえる場所があるっていいね、お母さん」と！

私は、今、感謝の気持ちでいっぱいです。息子を育ててくださったボランティアの皆様本当にありがとうございました。



嬉しいね！

小学校2年生から約9年間、「あすなろ」に通ったA君はこの4月から高校に通っています。A君が10月のある日、汗をかいて「あすなろの家」に飛び込んできました。

座間駅から15分かけて走って来たとの事。その日は、学園祭の手伝いで早めに帰れたので「あすなろの家」を訪ねてくれたのでした。

あんなに生き生きしたA君を見るのは初めて！ 体つきがしまって、素直な青年になっていることで、私達スタッフは、「あすなろ」にかかわってきた喜びをしみじみ味わいました。そしてこの「あすなろの家」を「心のふるさと」として又「居場所」として受け止めてくれている事が何よりも嬉しい事でした。われわれも元気を頂きました。

不登校ひきこもり居場所あすなろの活動は、児童生徒の居場所づくりを活動の趣旨として活動を進めています。

【勉強しなさい】とは言わずに、本人が「学習したい」と言い出すまでじっくり待つことにしていますが、本人が言い出して、学習支援を進めた結果の成果を見るとき喜びは大きなものです。

わたしたちの活動の支えになっているのは、このような本人の声や母親の気持ちなのです。「できることをできるときにできる人が」をモットーにボランティア活動を進めているスタッフのやりがいなのです。